



## ノルウェーのワーキングホリデー

1年間旅行をしながら就労体験ができる制度をワーキングホリデーと言います。互いの国や文化への理解を深め、友好関係を強化することを目的とするもので、日本から行くにはオーストラリアなどが一般的でした。今まで日本とノルウェーとの間にはその制度がなかったのですが、昨年11月ストルテンベルグ首相が来日した際、首脳会談において合意されました。その後3ヶ月の準備期間を経て、いよいよ2月1日から申請の受付が開始されました。申請の時点で年齢が18歳から30歳の日本人を対象に、ノルウェーに旅行目的で滞在し、その間に現地で一定期間の就労が認められます。もし私の学生時代にこの制度があったなら、ぜひやってみたかったと思います。ただの旅行でもなく、もちろん仕事だけでもない体験は、その国を深く知ることにきつとつながるはず。また、自分を見つめなおす良い機会になるかもしれません。

先日、I先生がチリの大学での研究生生活を終えて帰国しました。さっそく授業をしてもらっていますが、帰国途中に旅行してきた南米各地の話が興味深いですね。いかに日本が安全な国かということも良くわかりました。2週間後には高校2年のK君が1年間のイギリス留学を終えて帰国予定。こちらの土産話も楽しみです。

ところで、「仕事」つながりでちょっと気になるのが宿題を仕事だと思っている人のこと。確かに宿題を英語で言えばホームワークですが、このワークはせまい意味での仕事と違うはず。仕事と誤ってしまっている人は、いかに仕事量を減らすか（だから先生方に少なく出させようと交渉したりする）や、いかに効率よく「こなす」かにばかり一生懸命です。中には「家ではぜったいにやるもんか」というポリシーの人までいて休み時間に終わらせようと急いで「こなして」いたりします。この塾で宿題を出す目的は、塾で学習したことを家でもう一度思い出す時間を作ってほしいから。そして次の授業までにわかっているところとあいまいなところの区別をつけておいてほしいからですよ。そこんところよろしく！